



高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル7F
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

※ 現事務所ビルの7階に移動しました。

今号の内容

- ▶ シリーズ北の志
 - ・新十津川農業高校
 - ・帯広農業高校
- ▶ 第64回全道大会報告
- ▶ 新会長あいさつ
- ▶ 支部だより
 - 名寄・留萌



Heart to Heart 北の志

—ひたむきに頑張る君たちを応援したい—

はばたけ未来のアグリスト

～君たちの可能性は無限だ!～



だべ...



第5回北海道農業高校生

ガーデニングコンテスト

～市民賞を受賞して～

北海道新十津川農業高等学校

教諭

丹 倫 光



△はじめに▽

今年で5回目を数えるガーデニング甲子園は、フラワーカーペットに替わる花フェスタの目玉として、平成22年から全道の農業高校生を対象に開催されています。

日頃の農業学習で身に付けた、ガーデニングの計画・設計・栽培についての知識や技術を用いて、6m×3mのスペース(第5回から2.5m×2mのコンパクト型が新設)に自校で栽培された鉢花・花卉を使って、創意工夫を凝らしたガーデニング作品を製作し、大通公園4丁目に展示しています。本校は第1回から参加

しており、草花の科目を履修する2学年農業コースの生徒が毎年担当しています。

△失敗から見たこと▽

私は、3年前に本校に着任し、1学年の担任と草花の教科指導を担当することになりました。1年目は花フェスタと宿泊研修の日程がぶつかってしまい、ホームルームの運営をしながら、満足な準備もできないままの参加となりました。着任したばかりということもあり、今振り返ると2年生とのコミュニケーションもうまくとれておらず、目指すものは何かを生徒に明確に伝えることができていなかったのだと思います。



2年目は、自分の担任クラスの生徒が担当ということもあり、早い段階から準備をすることができました。1年目の反省から、授業の中で生徒達としっかり話し合い、他校の作品との差別化に重点を置くことを第一に考え、一目見て『新十津川農業高校のガーデニングだと分かるスタイル』をコンセプトとし、いままでの各校の展覧作品に



ないデザインの研究を始めた。

△新農スタイルの模索▽

生徒から常勝校とは違うスタイルにしたいと提案があり、試行錯誤を繰り返しました。一年草を精巧に植え込んだ華やかなフラワーボックスやハンギングバスケット、洗練されたデザインのペアゴラは、いくら真似をしてもオリジナルには勝てないという結論に導いてくれました。

使用する草花についても、本校で栽培している花壇苗は町外からの予約だけでも3万株を超え、花フェスタ専用的一年草の苗を準備することが困難であることから、色目の派手さはないが大形で存在感のある宿根草を中心に使用することになりました。作品のフォーカルポイントとなる造形物は、近場の有名なガーデンである旭川市の上野ファームと月形町のコテージガーデンに見学に行った時に視界に飛び込んできたシェッド(小屋)に決めました。

△ナチュラル

ガーデンの追求▽

私たちのオリジナルは小屋を中心に据えた宿根草ガーデン。テーマは『農村』のような癒しを感じられる雰囲気、使用される花はどの学校にも使われていない宿根草を中心に、所謂ナチュラルガーデンスタイルを目指しました。草花もただ並べる

だけでなく、ストーリー性のある雑貨とともに配置するように心がけました。農場のありとあらゆる素材を取り入れ、小屋も産廃で捨てられるところだった木材を再利用して制作し、泥だらけのトタン板でアンティーク調になるように徹底しました。

2年目の結果は『準大賞』。小屋のインパクトだけでなく、錆び付いた農具などの雑貨が花の良さを上手に引き出し、見る人によってさまざまな想像を広げる『新農スタイル』が完成しました。

△市民賞を受賞して▽

3年目は魅緑の里シリーズの集大成として、『魅緑の里2014 花と野菜のコテージガーデン』ナチュラルスタイルガーデンの提案の『タイトルドおり、宿根草だけでなくハーブや野菜、果樹を配置して新しいガーデニングスタイルを提案することとしました。担当した生徒達は、たくさん

場者投票では、もっとも多くの票を獲得して、大賞校、入賞校を押さえて『市民賞』を受賞することができました。

△おわりに▽

コンテストですので、大賞を獲れずに残念で悔しい思いをしました。生徒一人ひとりが真剣に取り組み、それぞれの役割を果たせたことで、達成感や充実感を得ることができました。また、市民賞の受賞とは別に、一般の皆様からのお電話やお手紙での激励やブログ等での紹介を多数いただきました。思いもよらぬ反響で驚きました。生徒の熱意や作品への評価、指導者としてこれ以上ない栄誉であります。

来年こそ大賞を獲得できるよう、これからの指導に励みたいと思います。ありがとうございました。



日々の歩み

～わが校の近況を紹介します～

北海道帯広農業高等学校 教頭(全)

三上 拓志



本校は、大正9年「十勝農学校」として創立。以来94年にわたり、「農と食と環境」の実学教育を通じて逞しく生きる人間教育を実践し、その間16,600人の卒業生を送り出してきました。現在、全日制5学科、定時制1学科の670名強の在校生が校訓である「礼儀・協同・勤労」を基本とした学校生活を送っています。本校では職業人としての勤労意欲や社会性を養いつつ、部活動などにも積極的に取り組み、心身共に逞しい人間となるような「人づくり」を目指しています。また、農業経営者育成寮を有し、食料生産に関わる学科の生徒は寮での共同生活により、農業実習の基礎を学んでいます。



十勝の中心である帯広市

に位置し、110haという広大な敷地面積を有します。このうちの約87haは実習地であり、ここでは、作物の栽培、家畜管理飼養管理及び収穫物を利用した加工品製造、さらには校地内のアンテナショップ(あぐりす)での販売実習等を行う等、農業のスペシャリスト育成を目指しています。



また、帯広畜産大学との高大連携、開発局帯広農業事務所との教育支援パートナーシップなど、地域との連携による環境保全・循環型農業にも目を向け、特に集約放牧による飼料自給率の向上と健康優良牛群の作出の取組や酪農教育ファームの認証制度を活用して地域に開かれた農場としての定着を図っています。サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業でも「十勝型人工湿地の実証」についての取組を実践するな

ど、農業王国十勝の農業専門高校としての役割を大いに果たしています。

1 多彩な学校教育

— 特色ある取組 —

(1) 経営感覚と新技術の習得
本校には日頃の農業実習の成果を広く紹介し、その評価を得る場として校内店舗(あぐりす)を整備し、各学科で生産した実習製品の販売を行っています。帯農産物の新鮮な野菜や作物、牛乳や乳製品、肉製品等の加工食品、花、時には庭木や木工加工品等を求めて、市内や管内各地から一般の方々が見物運んでくれます。農畜産物の高付加価値化と流通形態の多様化という6次産業化を見越した取組が本校では早くから教育として導入されています。

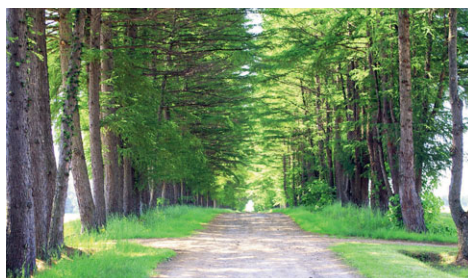
また、最近では教育課程研究指定事業である「将来の地域農業を支える農業経営者育成に関する研究」を通じて、農業に関する各専門科目における学習意欲を向上させるべく座学と実験実習を関連づけた指導法について検討しており、現在も農業教科における学力推進事業の推進校としての役割を実践しています。

(2) 開かれた農場づくり

本校では「酪農体験を通して食と命の学びを支援すること」を目的に本校のスタッフが酪農教育ファシリ



テーターとなり、酪農教育ファーム認証牧場である本校の農場で酪農生産に係る作業等の体験を通じた教育活動を行っています。この体験には小学生を中心に年間1000名以上の申し込みがあります。また、校内にはカラマツ並木があり近隣住民の散歩道として、遠隔からの旅行者が数多く訪れています。



(3) キャリア教育の実践
本校のキャリア教育の特色は、産業現場での積極的な経験の推進にあります。



特に林業における現場実習では、専門的な技術と技能を高め、より実践的な職業知識の能力を伸ばさせる事を目的としたデュアルシステムにより地域産業との連携を通じ、夏季休業中に実践しています。参加した8割の生徒は関連事業体就職し、就職後の離職率は皆無です。

また、農業土木等、専門公務員を志望する生徒は増加の傾向にあり、朝の講習に参加し道職員、市町村職員への合格を目指しています。

(4) PTA活動の活性化

毎年恒例の活動である学校祭の全日制PTAバザーでは、今年度フルーツカップケーキを考案し、10名の保護者を中心となり買い出しから調理、販売を行い、用意された200個以上のカップケーキが2時間程で完売し、大好評でした。特に女性客に人気があり、一般公開で来校された多くの方々を訪れ、笑顔いっぱい舌鼓を打っている光景が印象に残っています。参加したPTAも楽しく活動す



ることができ、売上金は生徒会活動に役立てることにしています。また、他にもPTA活動では交通安全集会や帯広市の防犯活動に定期的に参加し、地域が子どもたちを守るという目的の下で、生徒の健全育成の一翼を担っています。

2 おわりに

一昨年から幕別町忠類出身の本校同窓生である荒川氏の執筆「銀の匙」が注目され、本校をモデルとした大蝦夷農業高校を舞台にした酪農青春マンガ、実写版映画が大ヒットしました。これを機会に、農業・農家への国民の関心や理解が深まり、さらに農業の重要性が認識されるきっかけになればと期待しています。地域自立型の農業・農村社会を築くために、郷土や地域を愛し、誇りを持って生きることを出来る未来のリーダーを育成することが、本校教育に託された使命であること自覚し、本校職員一丸となって地域と共に教育を推進して参ります。

北海道高等学校PTA連合会

第64回大会（後志大会）

【開会式】

大会主題を「価値観の多様化時代、子供たちの主体性を育む意欲的なPTA活動を」とし、「後志の山々と紺碧の海 世界に名を馳せる雄大な自然の中で 北海道の経済発展を切り拓いた伝統ある港町 この小樽で 全道のPTAの絆を深め 未来に向けたビジョンを語りましょう。」の大会メッセージのもと、グランドパーク小樽を主会場に、二日間にわたる大会が幕を開けた。



開会式で主催者を代表して挨拶にたった山本会長はPTA組織が担ってきた役割にふれ「保護者と先生が

互いに手を取り、理解を深めて、次代を担う子供たちへ安定した支援を行う必要がある、子どもたちや会員の皆様の応援団として活力ある組織運営を進める所存である」と決意を述べた。また、今大会が「各支部や各学校単位でのPTA活動が、今以上に活性化し柔軟な対応できる組織を目指して、情報交換や意見交換を行うことで保護者力や教育力の向上となるポイントを見つけていただきたい」と期待を込めた。

続いて、大会実行委員長、北海道小樽水産高等学校の佐藤公寿会長は、「本大会が心豊かな逞しい次代を担う青少年を育むために、私達大人がどのように導いてやれるのかを、今一度真剣に考える絶好の機会である」と述べ、「未来を担う子供たちのために、今、PTAとして何をなすべきかを共に考え、学び、交流しましょう」と呼びかけた。

さらに、共催者挨拶として全国高等学校PTA連合会の相川順子会長は、「高校生にかかわるさまざまな問題で私たち保護者はいろいろな角度から情報を得て考えていかなければならない」と訴え、昨年に引き続き「子供の命は何よりも重いものだ」と伝えた。

この後、道高P連功績者表彰並びに感謝状の贈呈が行われた。功績者を代表して北海道小樽桜陽高等学校の二杉寿志前PTA会長、感謝状を北海道札幌東陵高等学校の池本章前PTA会長に贈呈された。来賓として北海道教育委員会の立川宏教育長に代わって、森徳男教育指導監が祝辞を述べ、北海道高等学校長協会の富田敏明会長に代わって、中田貢副会長が祝辞を述べた。

【講演会】
講演では、講師に（株）ニセコ・アドベンチャーセンター代表のロス・フィンドレー氏を迎え、「僕のニセコ冒険／恋愛／外国人」と題して、講演を行った。



「自身のスポーツ経験やオーストラリア、アメリカなどで指導者として積んできたキャリアのほか、俱知安在住後の経験などを踏まえた活動について紹介した。

裏のテーマは「住むより楽しむ」と前置きし、「自分みたいなスポーツ好き、外でずっと遊びたい人のために仕事をつくりたかった」と会社を設立した経緯について紹介しました。常にプラス思考で前向きに取り組む中で苦労話はないと語り、「冒険」というテーマでは、会社が大きくなるに従って新しいアドベンチャーを足していくかフティングに続き、ダツキー、トラッキング、マウンテンバイク、クライミングウオール、C.A.Tスキーと、次々と新たなアドベンチャーを取り入れていったことを紹介した。

次に、「恋愛」というテーマでは、奥様との馴れ初めについて披露し、新婚旅行はロスがオーストラリアへサーフィンに、奥様がアメリカヘスキーの国際大会に行つたと別々の新婚旅行であったと笑いを誘う場面もあった。

さらに、「外国人」というテーマでは、マーケットが世界に広がっていることに触れ、オーストラリアをはじめ、香港や韓国、インドネシア、マレーシア、シンガポールなどから来る観光客を増やす工夫などについて語るとともに、日本人とは違った滞在期間の長さなどについて紹介した。

最後に、「商売のアイデアは全部秘密にしているけど、一つのアイデアをあげます」と語りかけ、「道東の使つてない道路にちよつと枠をつけて、氷にしてスケートで移動すると楽しいでしょ」と講話を締めくくった。

【分科会】
大会二日目は、北海道小樽潮陵高等学校と北海道小樽水産高等学校を会場に分科会が行われた。

「定時制教育（夜間・昼間・三部制）」とPTAの関わりについて、「子育てを一人で悩まない！保護者懇談会のあり方について」、「PTA会長としての役割と学校との関わり方について」、「学校へ行こう！みんなが参加したいPTA活動について」など、三十六の分科会に分かれて、情報および意見の交換が行われた。



各単Pの活発な活動が紹介されるとともに、各単Pの抱える課題に共感する場面が見られるなど、熱く語り合い、真剣に話し合う中で、時間を忘れての有意義な交流となった。また、参加した保護者や先生方のPTA活動や子どもたちに寄せる熱い思いを感じる貴重な機会となった。

北海道小樽水産高等学校 教頭 亀山 喜明

新会長ごあいさつ



北海道高等学校PTA連合会
会長 山本 富造

（総会での挨拶より）

全道からお越しの皆様、こんにちは。本日、午前中に開催された北海道高等学校PTA連合会総会におきまして、皆様のご承認を賜り会長を拝命いたしました山本でございます。不慣れな点が多々あるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

この度は、大会主管の後志支部、佐藤公寿大会委員長をはじめ後志支部各単P17校の会長、校長先生、教頭先生、そして実行委員、関係者の皆様にはこの大会準備に大変ご尽力いただいたことと拝察いたします。本日、この素晴らしい大会を迎えられたのは、ひとえに、皆様のご苦労のおかげであり、重ねて深く感謝申し上げます。

さて、当連合会の平成26年度は新体制でのスタートとなりましたが、昨今の急速な少子化傾向は学校数の減少やPTA会員の減少を招き、PTAの組織運営にも影響を及ぼしかねない状況となっております。そしてまた、子どもたちを取り巻く教育環境は依然として厳しく、新たな課題も浮上しています。その中において、保護者と学校教育関係者の団体である私たち北海道高等学校PTA連合会が今まで担ってきた役割は、子どもたちの成長や学校支援に欠かすことができない重要なものであり、継続性の高い社会的責務を果たし続けてきたことへの自負があります。今後は、これまで以上に会員の皆様の幅広いご意見に耳を傾けるとともに、子どもたちの応援団として、そしてまた、各支部や単位PTAの応援団として活力ある組織運営を進める所存であります。

ところで、本大会は、保護者力・教育力向上のポイントを見つける絶好の機会です。皆様には是非積極的な情報交換や意見交換を行っていただきたい。そして、その貴重な経験を明日からの各支部や各単PでのPTA活動に生かし、より活発なPTA、より柔軟な対応ができるPTAにさせていただきますよう、ご期待申し上げます。

北海道高等学校PTA連合会は、引き続き、全国高P連、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会をはじめ、関係諸団体との良好な連携を保ちながら、「すべては子どもたちのために」全力で取り組みますので、本連合会へのご理解と更なるご協力をお願い申し上げます。皆様へのご挨拶とさせていただきます。

北海道高等学校PTA連合会
平成26年度
総会報告

日時 平成26年6月14日(土)
場所 グランドパーク小樽

1 会長挨拶

山本富造会長代行

2 議長選出・議事録署名
人指名

(1) 議長
加藤三博代議員
(岩内P会長)

(2) 議事録署名人
小林裕幸代議員
(釧路北陽P会長)

(3) 記録者
元岡大輔
(小樽水産教諭)

(3) 山本人志(〃)

3 議事

(1) 第1号議案

「平成25年度事業報告」

(2) 第2号議案

「平成25年度収支決算報告」

(3) 第3号議案

小野次長が報告。

「平成25年度会計監査報告」

笹谷純代監事より、「会則に規定に基づき監査したが、適正に執行されている」旨の報告があり、第2号、第3号議案について、意見・質問等はなく、承認。

(4) 第4号議案

「北海道高等学校PTA連合会会則の一部改正(案)」

事務局長より、会則の「会長代行」の削除、会則7条(1)(2)の人数の改正、会則第22条に「正副会長会議」を定めること

の提案があり、承認。同時に会則施行細則改正の報告があった。第5号議案

(5) 第5号議案

「平成26年度役員改選(案)」

下山春美選考委員(石狩支部)より、第3回道高P連理事

会の承認を経た8名の役員候補の推薦があり、拍手により承認。

会長 山本 富造
(石狩・新・札幌新川)

副会長 村上 義人
(胆振・再・苫小牧西)

監事 野村 光孝
(石狩・再・札幌南)

蜂谷 規彦
(旭川・新・旭川南)

種田 千草
(石狩・新・尚志学園)

第6号議案

「北海道高等学校安全互助会設立の説明・提案があり、承認。

第7号議案

「平成26年度事業計画(案)」

事務局長が提案し質問・意見等はなく承認。

算(案)」
次長より説明・提案があり、承認。
第9号議案

(9) 「平成27年度道高P連総会・第65回全道大会(案)」

ア 開催支部
北見支部

イ 主管校 北海道北見北斗高等学校

ウ 日時 平成27年6月13日(土)～14日(日)

(10) 第10号議案

「平成28年度道高P連総会・第66回全道大会(案)」

ア 開催支部
道南支部

事務局長が第9号・10号議案を明

質問・意見等はなく、承認。

5 退任役員紹介、新役員自己紹介

(1) 退任される榊原綾子顧問、山本伸弘副会長、池本章監事、笹谷純代監事の略歴等を紹介。続いて各自が退任挨拶。

(2) 新役員を代表して山本富造会長より挨拶。続いて各自が役職名等自己紹介。

道高P連の総意で

一般財団法人北海道高等学校安全互助会を設立

生徒とPTAを対象に、来年度から共済事業を実施し

かけがえのない子供達が、心身とも健康で安全な学校生活を過ごすことは、すべての保護者にとつての願いです。しかしながら、不幸にして災害に遭うこともあり、平素からこれに備えておくことも大切です。

北海道高等学校PTA連合会では、六月の総会で「北海道高等学校安全互助会」の設立を決議し、来年度から共済事業がスタートします。

共済制度は会員があらかじめ一定の掛金を出し合い協同の財産を準備し、災害など不測の事態が生じた場合には、共済金を給付することにより、生活助け合うことを目的とする、相互扶助の精神により成り立つ制度です。

安全互助会の理事長には山本富造会長、評議員には高P連各支部長が就任するなど、安全互助会は道高P連と一体となって運営される組織です。

学校での生徒の災害には、日本スポーツ振興センターから給付金が支給されますが、

災害の際には様々な出費があることから、これを補うことなどを目的に、北海道では昭和六十二年から安全互助会が組織され共済事業が行われていました。保険業法の改正により実施が不可能となり、平成十八年には募集が停止されました。安全互助会に代わる制度設立への要望もあり、高P連では民間会社が運営する災害補償制度を導入しましたが、加入者の減少などの課題を抱えていました。



一方、共済事業の復活を望む多くの声が全国から寄せられたことに応え、平成二十二年に「PTA・青少年教育団体共済法」が成立し、再びP

TAの手による共済事業を実施することが可能になったのです。これらの経過を考えますと、道高P連としても安全互助会をしっかりと支え育てていく必要があるということです。

本会の共済事業の特徴は、学校管理下の生徒だけでなく、PTA管理下の生徒やPTA会員の災害も共済の対象としていることです。これにより各学校におけるPTA活動の活性化の一助ともなわれると思います。

また、安全互助会は共済事業のみを目的としている組織ではありません。生徒の安全や健康に関する啓発事業や高P連との共済事業も実施することにより、生徒が災害を被ることなく健全に成長していくことができるよう取り組みを進めていきます。

十月から十二月にかけて高P連各支部で、共済事業の説明会も実施する予定です。

以下に、本会の共済制度の概要を掲載しますのでご覧ください。

共 済 事 業

1 共済事業の契約者及び会員

- (1) 共済事業の契約者
 - ・ 共済事業に加入した北海道の高等学校の単位PTA会長
- (2) 共済事業の会員（共済金の支払いの対象者で被共済者ともいいます）
 - ・ 共済事業に加入した単位PTAに所属し、共済事業の会員となるため会費を納入した者

2 会費

- (1) 生徒及びPTA会員
 - ・ 全日制課程・中等教育学校後期課程・専攻科
 - 生徒 1400円（共済会費1300円、一般会費100円）
 - ・ 定時制課程
 - 生徒 700円（共済会費650円、一般会費50円）
- ※ 保護者（PTA会員）は生徒の加入を以て共済事業の会員となります。
- (2) PTA会員のうち所属する単位PTAに保護する子女が在校していない者
 - 180円（共済会費130円、一般会費50円）

3 被共済者（共済事業の対象者で共済金の給付対象となる者）の範囲

- (1) 生徒
 - ・ 保護者が共済事業の会員である生徒
- (2) PTA会員等
 - ・ 共済事業の会員であるPTA会員及び特定の役割を行うためにPTAが主催又は共催する行事に参加することをPTA会長が認めた者

4 共済金の給付対象となる活動

- (1) 生徒 「学校の管理下」及び「PTAの管理下」で発生した災害
- (2) PTA会員等 「PTAの管理下」で発生した災害

災害とは

「学校の管理下」及び「PTAの管理下」にある間に被った負傷、疾病及びその結果としての障害、死亡で、その範囲は日本スポーツ振興センター施設法令第5条のとおりとする。

「負傷」は、偶然性・急激性・外來性によるものをいう。
「疾病」は、中毒、熱中症、嚥下性肺炎、運動に伴う心臓系疾患、中枢神経系疾患などをいう。

「学校の管理下」とは

- ① 生徒が法令の規定により学校が編成した教育課程に基づく授業を受けている場合
- ② 生徒が学校の教育計画に基づく課外指導を受けている場合
- ③ 上記の他、生徒が休憩時間中に学校にある場合、その他校長の指示又は承認に基づいて学校にある場合
- ④ 生徒が通常の経路及び方法により通学する場合

「PTAの管理下」とは

- ① PTA会員等がPTA総会など会則に基づく手続きを経て決定された、PTAが主催又は共催する行事（学校が主催する行事のうち予めPTAが組織的に参加することを決めた行事を含む）に参加している場合
- ② 生徒が休業日（長期休業中の平日を除く）に、スポーツ振興センターの給付対象とならない活動のうち、PTAが主催又は共催する活動に参加している場合
- ③ 生徒やPTA会員等が合理的な経路及び方法により自宅と会場の間を移動する場合

5 共済事業の区分及び共済金

(1) 生 徒

区 分	対象の活動	給 付 内 容
死亡共済金	学校の管理下	1,000万円 (通学中又は突然死の場合はその2分の1の額)
特別死亡共済金	PTAの管理下	1,500万円 (通学中又は突然死の場合はその2分の1の額)
障害共済金	学校の管理下	最高1,200万円 障害の等級ごとに別表1に定める額（通学中の災害に起因する場合はその2分の1の額）
特別障害共済金	PTAの管理下	最高1,500万円 障害の等級ごとに別表2に定める額（通学中の災害に起因する場合はその2分の1の額）
歯科補綴共済金	学校の管理下 PTAの管理下	1本につき4万円を限度に自費治療費の範囲内で2本まで（通学中の災害の場合はその2分の1の額）
傷病共済金	学校の管理下	スポーツ振興センターの災害共済給付額が1万円以上の場合にその2分の1の額（ただし、1ヶ月の給付額が6万円を超えない範囲の額）
特別傷病共済金	PTAの管理下	スポーツ振興センターと同様の算定方法により算定した額が5万円以上の場合に算定した額（ただし、災害の発生の日からその日を含めて180日以内）

(2) PTA等

PTA 死亡共済金	PTAの管理下	400万円 (移動中又は突然死の場合はその2分の1の額)
PTA 障害共済金	PTAの管理下	最高400万円 別表5の区分に定める額 (移動中の災害に起因する場合はその2分の1の額)
PTA 傷病共済金	PTAの管理下	入 院 7～30日 5万円 31日以上 10万円 1災害1回限り
		通 院 3日以上 1万円 1災害1回限り

○「障害」関係の共済金はスポーツ振興センターの区分した等級（労働者災害補償保険法施行規則別表第1）を適用します。例えば、「障害共済金」の場合、1級は1,200万円、14級は25万円です。

※（一般事業）

香料給付事業	生徒が死亡した場合で、スポーツ振興センター及び当会の給付対象とならなかったときに10万円を給付
--------	---

平成26年度 北海道高等学校PTA連合会事業日程(案)

平成26年 7月26日現在

月	日	曜	内 容
6	14	土	道高P連「総会」第64回道高P連大会(後志大会)第1日目
	15	日	第64回道高P連大会(後志大会)第2日目
	20	金	全国高P連第64回福井大会参加申込締切
	28	土	全国高P連・平成26年度第2・3回理事会・総会
	29	日	全国高P連・平成26年度第1回各種委員会
7	13	日	全国高P連第4回理事会
	26	土	平成26年度第1回常任理事会・理事会・各委員会等
	29	火	全国高P連第1回賠償責任補償制度運営委員会
	31	木	※「一般財団法人・北海道高等学校安全互助会」の法務局への登記
8	8	金	高校生と語るつどい(道南支部)～9日 2日日程
	〃	〃	〃 (釧路支部)～9日 2日日程
	21	木	第64回全国高P連大会福井大会運営会議・事務局長会議他
	22	金	第64回全国高P連大会福井大会(～23日)
9	上		道高P連だより131号発行
	6	土	※北海道高等学校安全互助会評議委員会
	20	土	全国高P連第2回各種委員会・第5回理事会
	21	日	〃 第1回全国会長・事務局長研修会
	28	日	高校生ICT北海道大会第1回
10	13	祝	北海道シンポジウム(胆振・日高支部)
	19	日	高校生ICT北海道大会第2回
	20	月	全国高P連第2回賠償責任補償制度運営委員会 ※道教委による北海道高等学校安全互助会の共済事業の認可
11	3	祝	高校生ICTサミット(東京)
	中		平成26年度第2回支部事務局長会議
12	6	土	全国高P連第6回理事会
	中		道高P連だより132号発行
1	19	月	全国高P連第3回賠償責任補償制度運営委員会
2	14	土	全国高P連第2回会長・事務局長研修会
	15	日	〃 第3回各種委員会
	21	土	平成26年度第2回常任理事会・理事会・各委員会等
3	中		高P連だより133号発行
4	上		正副会長会議
	中		第65回道高P連大会(北見大会)案内発送(北見支部)
	中		平成26年度決算・監査(監事)
	下		平成27年度第1回支部事務局長会議
	下		第65回道高P連大会(北見大会)参加申込締切
5	上		第65回全国高P連岩手大会・各単P案内(旅行会社)
	中		全国高P連平成27年度第1回理事会
	16	土	平成26年度第3回常任理事会・理事会・各委員会等、役員候補選考委員会
6	中		第65回全国高P連岩手大会申込締切(旅行会社)
	13	土	道高P連「総会」第65回道高P連大会(北見大会)第1日目
	14	日	第65回道高P連大会(北見大会)第2日目
備 考			・各支部総会(5/上旬～6/上旬)

平成26年度 北海道高等学校PTA連合会役員・理事等名簿

平成26年 7月26日現在

No	役 職	所属等	氏 名	学 校 名	所属委員会	備 考
1	会 長	石 狩	山本 富造	札幌新川	—	全国：理事・進路対策委員 ★
2	副会長	胆 振	村上 義人	苫小牧西	健全育成	全国：健全育成委員 ★
3	〃	石 狩	洞野 博文	大 麻 研 修	〃	全国：研修委員 ★
4	〃	石 狩	新井田 寛	札幌月寒	総 務	全国：調査・広報委員 ★
5	〃	校長協会	富田 敏明	札幌南	総 務	北海道高等学校長協会会長 ★
6	監 事	石 狩	野村 光孝	札幌南	総 務	
7	〃	旭 川	蜂谷 規彦	旭 川 南	健全育成	
8	〃	石 狩	種田 千草	尚志学園	研 修	
9	理 事	石 狩	下山 春美	札幌東豊	総 務	総務委員長 ★
10	〃	石 狩	田中 淳子	恵庭北	総 務	
11	〃	道 南	北代恵美子	函館西	健全育成	健全育成委員長 ★
12	〃	後 志	佐藤 公寿	小樽水産	研 修	研修委員長 ★
13	〃	空 知	小暮 滝弘	栗 山 研 修	〃	
14	〃	旭 川	世木澤 実	旭 川 西	健全育成	
15	〃	留 萌	宮尾幸之助	留 萌	総 務	
16	〃	名 寄	工藤 紳吉	稚 内	健全育成	
17	〃	北 見	前田 敏行	網走南丘	研 修	
18	〃	十 勝	森 房明	帯広柏葉	研 修	
19	〃	釧 路	天方 智順	釧路湖陵	健全育成	
20	〃	根 室	石川 誠	別 海	健全育成	
21	〃	胆 振	山崎 浩之	苫 総 経	総 務	
22	〃	日 高	下川原 隆	浦 河	総 務	
23	〃	校長協会	中田 貢	札幌北	研 修	校長協会指名理事(校長協会副会長)
24	〃	〃	澁谷 寿継	札幌丘珠	健全育成	〃 (校長協会事務局長)
25	〃	〃	武内 達也	札幌新川	総 務	〃 (道高P連会長校校長)
26	〃	〃	菅原 浩	札幌東豊	健全育成	〃 (道高P連石狩支部長校校長)
27	〃	〃	本間 茂裕	恵庭北	研 修	〃 (道高P連次期石狩支部長校校長)
28	〃	〃	田邊 彰宏	岩見沢東	健全育成	〃 (校長協会空知支部長)
29	〃	〃	能代 茂	文教大明清	研 修	〃 (校長協会私学理事)
30	〃	教頭・副校長会	鎌田 到	札幌手稲	研 修	教頭・副校長会会長 ★
31	〃	事務長会	伊藤 陽司	有 朋	総 務	公立学校事務長会会長 ★
32	〃	養教研会	大村 道子	札幌東	総 務	養護教諭研究会副会長
33	〃	次大会主管校教頭	戸波 徹	北見北斗	研 修	北見北斗教頭(次期全道大会主管校教頭)

【敬称略】

広報特別委員会(担当副会長 新井田 寛)

委員長 下山 春美(札幌東豊)
 委 員 菅野 友香(札幌国情)
 " 前村 啓子(札幌琴工)
 " 田中 淳子(恵庭北)
 " 種田 千草(道尚志)

★ …… 常任理事

総 務 委 員 会 (11名)
 研 修 委 員 会 (11名)
 健全育成委員会 (10名)

北海道高等学校安全互助会設立準備委員会

委員長 山本 富造(会 長)
 委 員 村上 義人(副会長)
 洞野 博文(〃)新井田 寛(〃)
 " 藤岡 二郎(高体連会長)
 " 大村 道子(高養研副会長)
 " 宮川 恒美(事務局長)
 " 井村 美彦(事務局員)
 " 青陽 哲也(事務局員)

※道高P連事務局

宮川 恒美(局長)
 小野 修志(次長)
 小田島美香(局員)

※安全互助会事務局

井村 美彦(局長)
 青陽 哲也(次長)

支部だより

寄部
名支

名寄支部より

北海道高等学校PTA連合会

名寄支部長 工藤 紳吉
(北海道稚内高等学校PTA会長)

名寄支部は現在、宗谷と上川北部地区の15校、15単Pで構成されています。平成24・25年度を名寄高等学校が、平成26年の本年度と27年の次年度を稚内高等学校が担当しております。

5月30日(金)に稚内総合文化センターで支部総会を実施し、35名の参加を得て、昨年度の事業報告・決算・監査、新年度の事業計画・予算案・



支部表彰者案などが審議・承認された後、支部功績者への表彰式が実施されました。総会には北海道高等学校PTA連合会本部より、洞野博文副会長と、事務局の青陽哲也様に来賓として御出席賜り、御挨拶をいただくとともに団体保険の今後の変更点などについて御説明いただきました。

総会に引き続き、研修会が行われ、講師の稚内

北星学園大学情報メディア学部

長の齊藤吉広氏より、「ネット・

ケータイ・スマ

ホと高校生」と

題して講演をい

ただきました。

講演ではスライ

ドを交え、携帯

通信型ゲーム機などの、高校生が常日頃用いる情報関連機器に潜む危険点を説明いただきました。「なりすまし」相手によるトラブルや詐欺まがいの高額請求の被害などの具体的事例がわれわれのごく身近にあることが実感されました。また、子どもとコミュニケーションをしつかりとることや子どもに利用方法・マナーを考えさせることの重要性、などを御教示いただき、参加者一同熱心に耳を傾けました。

先にも申し上げました

とおり、本年度からの2

年間を稚内高等学校が事

務局校を担当します。微

力ながら本会のさらなる

発展のために力を尽くす

所存ですので、皆様の暖

かな御指導・御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

萌部
留支

PTA活動の充実を目指して

北海道高等学校PTA連合会

留萌支部長 宮尾 幸之助
(北海道留萌高等学校PTA会長)

留萌管内は、北海道の西北部に位置し、その西側は美しい日本海に面する延長約200kmの海岸線となつています。留萌市をはじめ、1市7町1村で構成されています。人口は約54,000人で、北海道の総人口の約1%を占めています。

留萌管内の産業は、農業・漁業中心の一次産業が基幹産業になっており、留萌市のカズノコなど水産加工業も盛んです。水産業は、エビ、タコ、カレイ、サケなどの沖合漁業のほか、ヒラメ、ホタテ、ウニ、アワビの養殖など、つくり育てる漁業にも積極的に取り組んでいます。また、観光は夏場の海水浴シーズンに観光客が集中し、近年はオートキャンプ場や「道の駅」、また、日本最北の天文台など各市町村の個性ある施設が目立つようになってきました。

また、管内では日本海沿岸に吹く強風を利用した風力発電もさかんに行われて

います。風車は、環境にやさしいクリーンエネルギー

の供給源としてだけではなく、その雄大な姿は町のシンボルとして観光の目玉としても活躍しています。

高P連留萌支部は現在7校7単位PTAが加盟しております。今年度、5月12日(月)に行われた平成26年度北海道高P連留萌支部総

会

会は7校24名が参加し、大変盛況に開催されました。総会は無事終了し、懇親会では各校のPTA会長、副会長が久しぶりに一堂に顔を合わせる機会となり、各単Pの取組やそれぞれの単Pで抱える問題点について、活発な意見交換を行い、大変有意義な時間を過ごしました。留萌支部は小さな支部ですが、留萌管内ならではのPTAの取組を行っており、会員相互の交流も大変盛んです。留萌支部では留萌管内を3つに分け、それぞれで「校外生活指導推進協議会」を実施しています。目的は管内の高校生の健全育成を図ること、昨年度はネットトラブルについてや生徒指導の喫緊の課題について、研究協議や情報交換が行われました。



また、管内の7校が輪番で年1回「留萌支部研究大会」を実施しており、昨年は遠別農業高校が当番校で生徒・保護者・教員が参加し、「いのちを守る・いのちを育む」をテーマに何ができるか』をテーマに遠別町で開催されました。また、管内の小学校・中学

校・高校が合同で研究大会を実施しており、昨年は根本和雄氏を講師とし「心を豊かに体を健やかに養う食生活」というテーマで講演会と研究協議が行われました。

最後に支部の事業を運営するに当たり、管内各単Pの皆様のご協力と道高P連のご支援により、無事終了することができましたことを心よりお礼申し上げます。これからも皆様のご協力を得ながら、子どもたちのために学校・家庭・地域が行って参りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。